

## 外国人団体旅行透析患者の受け入れを経験して

医療法人衆和会 長崎腎病院

○樋口美由紀 本多佐代子 松本 愛 米田千恵子 白濱美和白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 原田孝司  
船越 哲

### 【背景】

訪日旅行外国人は年々増加傾向であり、当院でも年間約 1 名～3 名の外国人旅行血液透析を受け入れている。今回、ツアー旅行の患者(国籍:台湾)9 名を同時に透析治療したので、その経験と今後の課題について報告する。

### 【目的】

ツアー旅行患者 9 名の血液透析治療が、安全かつ比較的スムーズに実施できた経緯を解析する。

### 【経過】

1. ツアーが来崎する 3 か月以上前から、当院主治医が現地の旅行コーディネーターから患者情報を収集した。
2. 18時からの透析クールとし、9名を同じブロックに集めた。家族が同行している場合はできるだけ患者のベッドサイドで過ごしてもらうようにした。
3. 旅行透析専用の当院スタッフは2名を配置し、透析開始には日勤者も加わり、回収には別フロア3クールのメンバーが一部加わった。
4. 透析室クラークは事前に患者 1 名につき 1 冊のクリアファイルを作成し患者情報をファイルした。表紙には体重測定用の QR コードを印刷し、患者名を中国語・英語・日本語(カタカナ)で大きく印刷し、体重測定や開始など、患者自身とスタッフで相互確認した。

### 【考察】

個々の患者専用のファイルを 1 冊にまとめ、患者と一緒に移動することが混乱を防げた最大のポイントと考える。現地看護師の付き添いがあったが日本語が通じず、血圧下降時、下肢攣り時などの際には、翻訳アプリや英語で情報を伝えた。また、ほとんどの患者に家族が同行していたことは大きな安心感につながった。